

国内経済

世界市場におけるデジタルカメラの状況

現在、デジタルカメラは日本の製造業復活の象徴となっている。

デジタルカメラを含む各種カメラの輸出額は98年から02年の4年間の間に2.6倍に増えた。図1は、各種カメラの輸出数量の推移を表したものであり、近年の右肩あがりの伸びはデジタルカメラ輸出を反映している。ITバブル崩壊後の世界経済の落ち込みとともにこの輸出の伸びは一時的に鈍化した。02年から再び前年比2桁台の成長を続けている。

現在、世界のデジタルカメラ市場における日本メーカーのシェアは約8割となっている(注)。日本メーカーの強みは、デジタルカメラ販売において先発しているだけではない。1988年にデジタルカメラが登場して以来、日本メーカー間で開発競争を繰り広げ、性能を向上させ続けている。

性能の急速な向上は、主要部品の性能向上とコストダウンによって達成された。CCD(電荷結合素子)、ズームモジュール、レンズなどデジタルカメラの主要部品は高い技術を必要とし、現在大半は日本メーカーにより供給されている。

また、日本メーカーは、消費者にとって手頃な価格でデジタルカメラを供給している。例えば、200万画素未満のデジタルカメラの価格は、約5年間で半額以下に下がり(図2)、需要をおおいに拡大させた。最近では一眼レフのデジタルカメラが20万円をきり、10万円台で発売されている。

また、技術進歩等により既存品の価格は下落しているが、付加価値の高い製品を次々に発売することにより、結果的に値崩れを防いでいる。図3は03年上期のデジタルカメラの輸出を画素数別に見たものであるが、5万円を超える500万画素以上のものを全体の15%という高い割合で投入している。

現状では、デジタルカメラ市場は急速に拡大しているため、価格が低下しても規模の経済により収益性を保っている。むしろ、CCD(電荷結合素子)不足で生産が旺盛な需要に追いつかないことがボトルネックになりかねない状況である。

しかし、その展望は必ずしも磐石ではない。現在、韓国、台湾、米国そして中国の企業がデ

図1 デジタルカメラ等の輸出数量

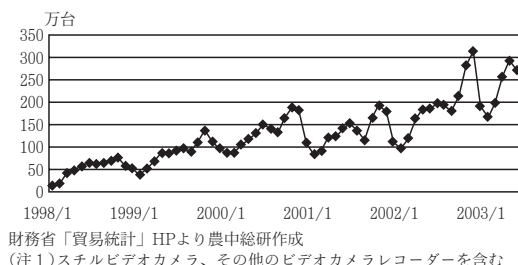


図2 デジタルカメラの価格の推移 (世界市場)

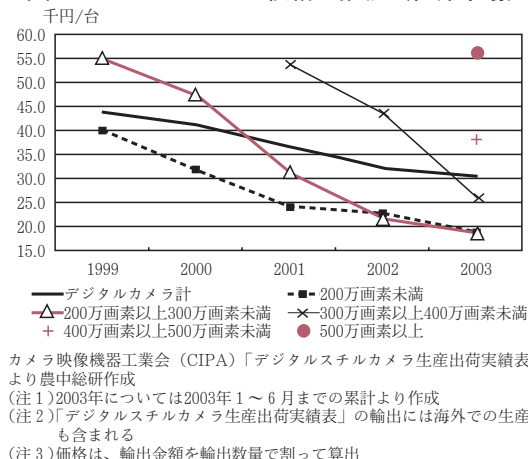
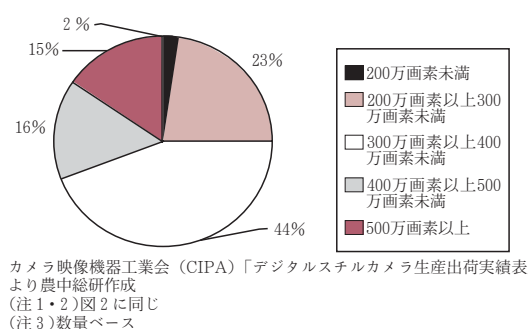


図3 画素数別デジタルカメラ輸出



ジタルカメラ市場のシェア拡大を目指している。市場の成熟に伴い、日本メーカーが、技術力の源である開発力をどのように持続させ、技術の蓄積を生かしていくかが問われてくるであろう。
(田口 さつき)

(注) 統計上把握できないが、日本の工場生産されるデジタルカメラは高級品が中心で、低中級品が海外工場生産されている可能性が高い。日本メーカーのシェアは必ずしも日本製のシェアを表しているとはいえない。